

PL/SQL プログラミングⅡ ～研修受講後テスト 解答～**■問題1【コンポジット型】**

以下の記述について、正しいものをすべて選択してください。

- %TYPE属性で変数を定義すると、参照する列のデータ型が変更されても、再コンパイルの必要がなくなる。
- 変数に表の全列のデータを複数行代入するためには、結合配列の要素のデータ型に%ROWTYPE属性を指定する。
- FORALL文を使うことで、複数の値をまとめて結合配列に代入することができる。
- 結合配列内のデータを削除する場合は、コレクション・メソッドを使用する。
- 分からない

<テキスト掲載箇所>1章

■問題2【システム固有の動的SQL】

EXECUTE IMMEDIATE文について、正しいものを全て選んでください。

- EXECUTE IMMEDIATE文を使うと、SQLの解析結果の共有率を向上させられる。
- EXECUTE IMMEDIATE文では、DDL文を実行することができる。
- EXECUTE IMMEDIATE文では、複数行を戻す問合せ文は実行できない。
- EXECUTE IMMEDIATEを使用したプログラムは、作成時にコンパイルされる。

<テキスト掲載箇所>3-1 ～ 3-8

■問題3【システム固有の動的SQL】

プレースホルダとバインド引数について、正しいものを全て選んでください。

- バインド引数の値は、必ずプレースホルダに受け渡される。
- プレースホルダを複数定義した場合、バインド引数はプレースホルダと同じ数だけ指定する必要がある。
- プレースホルダを使うことで、動的SQL文の解析結果の共有率を高めることができる。
- バインド引数には直接NULL値を指定できる。

<テキスト掲載箇所>3-7 ～ 3-14

■問題4【カーソル変数】

カーソル変数の特徴について、正しいものを全て選択してください。

- カーソル変数は、パッケージ仕様部で定義することができない。
- カーソル変数は、宣言部で定義するときに複数行の動的な問合せ文と対応付けられる。
- カーソル変数を使うと、カーソルのOPEN、変数のFETCH、カーソルのCLOSEが自動的に行われる。
- カーソル変数を使うと、他のプログラムにカーソル処理を受け渡すことができる。

<テキスト掲載箇所>4章

■問題5【ユーザー定義パッケージ】

パッケージの仕様部と本体の特徴について、正しいものを全て選んでください。

- パッケージの仕様部で定義されたオブジェクトは、他のプログラム上で使用することができる。
- パッケージの本体に、仕様部で定義されていないオブジェクトを定義するとエラーになる。
- パッケージは本体のみを削除することができる。
- パッケージは、仕様部と本体をまとめて作成する。

<テキスト掲載箇所>5-3 ~ 5-6、5-9 ~ 5-12

■問題6【ユーザー定義パッケージ】

パッケージの利点について、正しいものを全て選んでください。

- 変数やカーソルに、同一セッション内で値を保持させることができる。
- パッケージの仕様部に影響を与えずに、本体を変更できる。
- パッケージを作ると、ソースコードを暗号化して、情報を隠蔽化することができる。
- パッケージを使うと、パッケージ単位で権限の付与や取消しが行える。

<テキスト掲載箇所>5-5 ~ 5-8

■問題7【ユーザー定義パッケージ】

以下の中からオーバーロードができる場合を全て選んでください。

- 2つのプログラムの仮パラメータの順序が異なる場合。
- 2つのプログラムの仮パラメータのデータ型が同じ場合。
- 2つのプログラムの戻り値のデータ型のみが異なる場合。
- 2つのプログラムの仮パラメータのデータ型が、CHAR型とVARCHAR2型である場合。

<テキスト掲載箇所>5-13

■問題8【ユーティリティ・パッケージ】

DBMS_SCHEDULER パッケージについて、正しいものを全て選んでください。

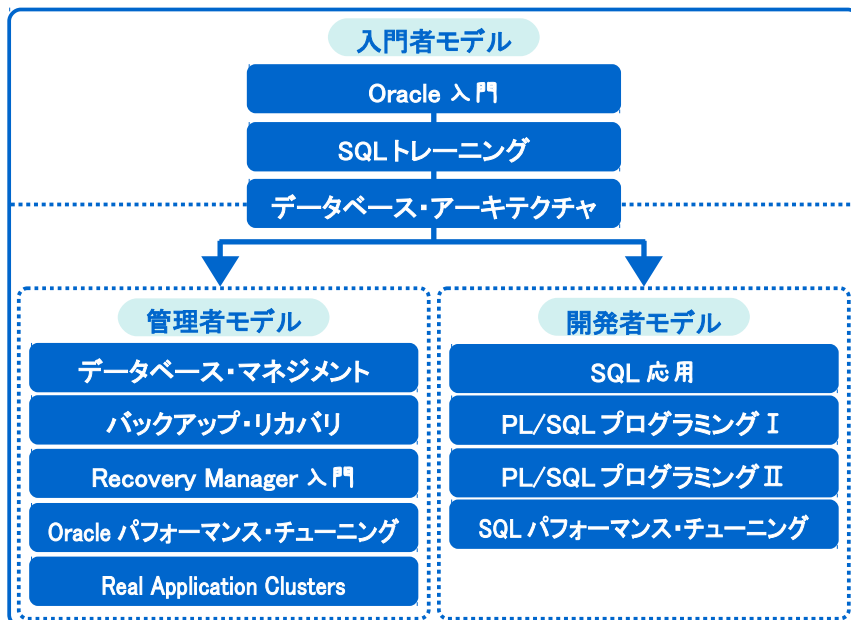
- 毎月月末といったカレンダー形式での実行間隔を指定できる。
- ジョブを作成する前に必ずプログラムとスケジュールを作成する必要がある。
- スケジュールを作成するためにはCREATE LOB システム権限が必要である。
- スケジュールを参照するにはアクセス権限が必要である。

<テキスト掲載箇所>6-15 ~ 6-24

Information

アシスト Oracle 研修内容の詳細については下記ページをご覧ください。
<http://www.ashisuto.co.jp/ojt/course/oracle/>

アシストOracle研修受講モデル



<入門者モデル>

Oracleの基本構造やSQLの基礎構文など、Oracleの全体像を理解できます。新入社員や異動された方など、これからOracleに携わる方にぴったりのモデルです。

<管理者モデル>

管理者として必要な運用管理タスクの理解やバックアップリカバリ、システムチューニングの技術を習得できます。

<開発者モデル>

Oracleを使用した開発に必要なPL/SQLの習得、索引やSQL記述方法などによるSQLチューニング技術を習得できます。

※研修内容についてご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

アシスト教育部：【TEL】0120-874-337 / 【FAX】0120-874-437/ 【E-Mail】edusup_ora@ashisuto.co.jp